



JSSH NEWS

日手会ニュース

発行：日本手の外科学会

広報委員会

第49回日本手の外科学会 学術集会を振り返って

第49回日本手の外科学会学術集会
会長 長野 昭

目 次

- 第49回日本手の外科学会学術集会を振り返って
- 平成18年度 香港トラベリングフェロー報告記
- 新名誉会員のご挨拶
- 新評議員紹介
- ハンドギャラリー(児島コレクション)
- 第10回 IFSSH 総会へのお招き
- 第2回日伊手の外科合同会議
- 会員特別頒布のご案内
- お知らせ =学会案内=
- 編集後記

平成18年4月20日(木)、21日(金)の2日間、アクトシティ浜松にて「末梢神経麻痺の治療戦略」をテーマにして開催させて頂きました第49回日本手の外科学会学術集会は盛会裡に無事終了することができました。これはひとえに学会に参加して頂いた会員諸氏のおかげであり、ご協力に心からお礼申し上げます。

今回の参加者は、約100名の作業療法士を含め1400名を超え、また、一般演題の応募数は過去最多の460題で、やや停滞気味と思っていた当学会の新しい活力に感激いたしました。応募された中でもっとも多かったのは橈骨遠位端骨折の54題、次いで手根管症候群が35題、手根骨損傷が23題で、これらが全応募演題の1/4を占めていました。発表演題は新しい技術の進歩とともに変わることを実感いたしました。なお、応募一般演題460題からの採用は341題で、採用率は74.1%となりましたため、多くの先生の演題が不採用となりましたこと、誠に申し訳なく思っております。この場を借りて改めてお詫び申し上げます。

学会長の腕の見せ所は、どのようなテーマのシンポジウムやパネルディスカッションを組むかとともに、どのセッションをどの会場に配置するかということと考えます。一般にシンポジウムやパネルディスカッションは大会場の第1、2会場で、一般口演の会場は小さな会場であることが多く、大会場がガラガラで、一般口演の会場は立ち見が出るほどの混雑していることが時にみうけられます。これに対しては、この2年間の当学会でどの分野に入場者が多いか、どの分野が少ないかを教員に調査してもらい、それを参考に、今回は一般演題である橈骨遠位端骨折を大ホールの第1会場に、パネルディスカッションの一部を第4、5会場に配置するなどした結果、いずれの会場も空席が目立つことも、混雑をすることも無く、その読みは大成功であったと自画自賛しております。

シンポジウムとして、「末梢神経再生の基礎的研究の進歩」、「末梢神経麻痺の治療の進歩」、「Musician's hand」、「手関節尺側部痛の診断と治療」と「手の腫瘍の診断・治療の進歩」、パネルディスカッションとして、「母指CM関節変形性関節症」、「伸筋腱断裂の手術」、「前腕両骨骨折の治療と問題点」と「肘不安定症の診断と治療」を、またビデオシンポジウムとして「神経修復術」と「複合組織移植」を取り上げましたが、いずれにおいても座長、演者の先生のご努力と参加者を含めた活発な討論により実りある成果が得られましたことに心からお礼申し上げます。特にMusician's handは今まで取り

上げられなかったこともあり、多くの方から勉強になったと好評で、喜んでおります。また、学術集会期間中に開催した第44回手の先天異常懇話会と第29回末梢神経を語る会も盛況であったようで、関係者にお礼申し上げます。

一方、学問のみでなく交遊の面でも多くの方が前夜祭に参加して頂きありがとうございました。今までは学術集会の前日に評議員懇親会を開催していましたが、今回はこれを会員皆様に参加して頂ける前夜祭に変更して、4月19日（水）の評議員会終了後18時頃から会場近くのドイツビアレストラン「マインシュロス」で開催いたしましたところ、学会の前日にもかかわらず300名以上の先生に出席して頂きました。大変な盛り上がりで、同学の士と楽しく歓談して頂けたことと思います。

次回は荻野会長のもと記念すべき第50回学術集会が平成19年4月19、20日山形市で開催されます。多くの先生が参加され、すばらしい記念大会となることを祈っております。



Professor Michael B. Wood, Professor Rolfe Birch, Jianguang Xu 教授, Panupan Songcharoen 教授とともに

平成18年度 香港トラベリングフェロー報告記

九州大学 整形外科 光安 廣 倫

この度、第6回日本手の外科学会・香港手の外科学会 Exchange Traveling Fellow に選ばれ、3月21日から31日まで香港を訪問してきました。今後も続く友好関係を構築する、をテーマに、香港の先生方との親睦を深めて参りました。

また今回は三浪明男北海道大学教授がご招待され、その随行の一員として参加できたことは（三浪教授にはご迷惑でしたでしょうが）、大変心強くまたすばらしい経験をさせていただきました。

第19回香港手の外科学会は、本年3月25、26日に Dr. W. I. Ip を会長に開催され、前述のように三浪教授、University of California, San Diego の Prof. Abrams を迎え、'Common Wrist Problems' をテーマに活発で自由な discussion が繰り広げられました。また学会に先立ち、三浪教授は2施設での供覧手術や Lecture と、私にとっては有意義な、（三浪教授は・・・）経験をさせていただきました。また学会後には University of Hong Kong (Dr. W. Y. Ip), Prince of Wales Hospital (Dr. Ho Pak), Princess Margaret Hospital (Dr. Lam Cho-yee) の施設を訪問させて頂き、外来、病棟、手術の患者さんについて香港料理とともに楽しく、意見交換を致しました。日手会の先生の中には当然と思われる先生も多いでしょうが、外来、病棟に therapist がいて当然のように診察が進んでいくシステムの構築は、アメリカでも感じましたが、必須のものだと実感しました。

香港の手の外科の先生方の特徴は、「仲が良い」ではないでしょうか。週に1回香港全体での整形外科のカンファレンスが行われ、問題ある症例を検討するように、医師間のコミュニケーションがとれていることに驚くと共に初期研修制度が始まった日本でも見習うべき教育制度かと、思いました。

香港は tax free であるそうで、香港の先生方に shopping について色々聞かれましたが、出発前の勉強不足で何がどの位安いのか、が全くわからず、今後訪問される先生には、手の外科での親睦もさることながら、香港の魅力についても少し調べていくことをお勧めします。

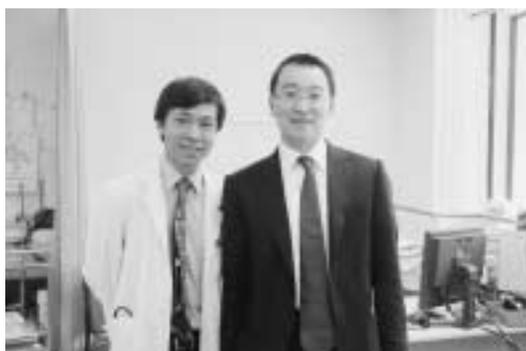
非常に楽しく有意義な訪問をすることが出来ました。三浪明男教授、不案内な私にお付き合いいただき、本当に有り難うございました。最後に選出していただいた中村理事長、水関国際委員会担当理事、金谷国際委員会委員長をはじめとする日手会の先生方に心より深謝申し上げます。



第19回香港手の外科学会



Dr. Lam Cho-ye とともに



Dr. Ho Pak と



Dr. W. Y. Ip と

新名誉会員のご挨拶

手の外科…思い出すこと

大阪医科大学名誉教授
阿部宗昭

本年4月の総会で名誉会員に推挙されましたこと、大変うれしく、また、光栄に思っております。この日手会ニュースに原稿を依頼されるのは4回目になりますが、今回は、大学を退職し第一線を退いたこともあり、手の外科医としての自分を振り返ってみることで責を果たしたいと思います。

私が手の外科を始めるきっかけはひょんなことからでした。私は昭和41年卒ですが、当時の先股脱の治療はLorenzの開排位ギブスからRiemenbugelへ替わり始めた頃で、学会に行くと、先股脱が第一会場のシンポや主題として取り上げられていた時代です。私には小児疾患が時代の花のように思われ、関連病院への出向から大学へ帰った時(昭和45年)は小児外来を担当させてもらおうと、密かに思っておりました。ところが、帰ってみると小児外来のスタッフは満杯で、外傷外来を担当するよう命じられました。仕方なく、月曜の外傷外来を担当しましたが、手の外傷が多く、必要に迫られて手の勉強を始め、次第に興味もわいてきたわけです。故田島教授が会長をされた第15回日手会(昭和47年)が新潟で開催された時に初めて演題を出しましたところ、学会の前に当時、大阪大学の講師であられた故江川常一先生から、私たちの演題に関係した別刷りとお手紙をいただき、毎月一回、阪大の整形外科外来で手の症例検討会をしているから参加しないかとお誘いをいただきました。この会には、大阪市大の故豊島助教授、藤原、楠先生、阪大の堀木、多田、泉類先生が参加されており、阪大の症例が中心でしたが、各自が症例(患者さんを含めて)を持ち寄ることもでき、自分の症例の診断、治療法を教えていただくだけでなく、手の外傷や疾患の治療方針の決め方を始め、手の外科の基本を学ばせていただきました。この症例検討会は、江川先生が開業されてからも診療所内で継続され、先生がお亡くなりになった後はご息子の雅昭先生が継続され、毎月一回開かれておりました。参加出来なくなったのはいつからかははっきり覚えておりません(平成3~4年頃?)が、この会に参加したことが、私の手の外科医としての第一歩だったと思っております。4、5年も経つと自他共に手の外科医ということになり、手以外にも、肘と肩もテリトリーに入り、上肢全体を対象としておりました。その後、肩に興味のある教室員が育ち、ある時期から、肩は腕神経叢損傷例の肩機能再建以外は肩グループに任せるようになりました。

昭和50年の初め頃だったでしょうか、一日か二日だけだったと思いますが、岡山での手の外科研修会も印象深い思い出の一つです。当時、順天堂の助教授であられた山内裕雄先生が子供の前腕の凍結新鮮標本をクーラーに入れて持ってこられ、その標本で津下健哉教授(当時)がルーペをかけられ、no man's land内での屈筋腱損傷を想定した腱移植手術のデモをされました。当時、midlateral incisionで手術していた私にとって、津下先生の鮮やかなメスさばきは勿論のこと、ルーペとBrunerのzigzag incisionは鮮烈な印象として残っております。帰ってから、直ちにルーペを購入し、zigzag incisionに変更したのは言うまでもありません。

昭和55年6月、第1回国際手の外科学会(オランダ、ロッテルダム)への参加も思い出深いものがあります(写真1, 2)。この学会へは山内裕雄助教授(当時)団長のグループツアーで参加しましたが、このツアーが実にユニークなものでした。学会の前後にヨーロッパの観光とドイツとフランスのいくつかの手の外科施設を見学しましたが、ホテルはtwinで毎日パートナー(残念ながら男性)が替わるようにアレンジされておりました。これは、施設間の手の外科医の交流が深まるようにとの

山内先生のアイデアであり、三浦（第31回会長）、中村（第46回会長）、土井（第48回会長）先生を始め、内西（慶大講師、当時）、二見（北里講師）、井上（名大分院講師）、前田（信大）先生達と同室させていただきました。この他に、同室はしなかったと思いますが、矢部（第33回会長）、荻野（第50回会長）、松井 猛、池谷正之、高橋正憲先生達と旅を共にしたことは、手の外科医としてのその後の歩みの中でかけがえのないものであったと思っています。手の外科施設で印象に残っているのは、NancyでのMichonの施設、HamburgのBuck-Gramckoの施設の他、パリのLAPASでの講演、とりわけ、Philippe SaffarのKienböck病に対するFCUをつけたpisiform置換術は多くの症例に追試をさせてもらいました。このような機会を与えていただいた山内名誉会員に感謝しているところです。

この他に、Campbell clinicへの留学のこと、近畿手の外科症例検討会のこと、手の奇形研究会（今の手の先天異常懇話会の前身で、江川先生が立ち上げられ、中部震災の前日に開かれていて、遠く北海道から荻野先生も参加されていた）のこと、手その損傷と治療（上羽康夫、玉井 進 編）の執筆分担など、手の外科医としての思い出はつきませんが、規定の字数をかなりオーバーしてしまいましたので、この辺で終わりにさせていただきます。こうして思い出してみますと、これまで、よき師や友人、後輩に恵まれ実に幸運な道をたどってきたものだ、お世話になりました日手会の名誉会員、特別会員、会員諸先生に感謝申し上げます。大学を退き、日手会は評議員を退きましたが、まだまだ、手と肘の臨床は続けていますし、日手会の顧問と国際手の外科連合(IFSSH)のdelegate(山内前 delegateのようにはまいりませんが)としての役目もあります。これからもよろしく願い申し上げます。

平成18年9月7日、初秋の気配を感じながら。



場所はおぼえていませんが、皆さん若いですね。三浦、山内、磯部先生ほか、教室の池田、木下（現大阪医大教授）先生の顔が見えます。



どこのプラットフォーム（ナンシーあたりか）でしょうか？山内グループの大方のメンバーです。プラットフォームが低いので線路をまたいで反対のホームから私が撮った写真です。

顔が識別できるといいのですが。

..... **…新評議員紹介…**

尼子 雅敏 (あまこ まさとし)

防衛医科大学校 整形外科



私は、平成2年に防衛医科大学校を卒業後、陸上自衛隊医官に任官するとともに整形外科学教室に入局し、政田和洋先生、根本孝一先生の下で手の外科を学んで参りました。基礎研究では慶應義塾大学の矢部 裕教授にご指導をいただいで末梢神経再生をテーマに勉強いたしました。平成11年からカナダのモントリオール市にあるMcGill大学形成再建外科学Williams教授の下に留学する機会を得ました。また自衛隊医官として第一次イラク復興支援群に参加し、サマーワの病院で地雷により両手を失った少女の診察をして、国際貢献の重要性を実感いたしました。

この度伝統ある日本手の外科学会評議員に選出され大変光栄に存じます。微力ではありますが、世界中の手の外科に関する問題解決に少しでも貢献できるように精進する所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

今谷 潤也 (いまたに じゅんや)

岡山済生会総合病院整形外科



この度、日本手の外科学会評議員に加えていただきましたことを大変光栄に存じております。

私は昭和63年に香川医科大学を卒業後、岡山大学整形外科学教室に入局致しました。その後、岡山大学附属病院、香川県立中央病院などを経まして、平成6年には関連病院の中で手の外科の中心的病院である岡山済生会総合病院に赴任致しました。当科の伝統を築き上げてこられた赤堀 治先生、橋詰博行先生など同門の諸先輩方から、手の外科・上肢の外科のご指導を受けながら、あっという間に12年の歳月が流れました。またその間、新潟手の外科研究所への国内留学の際には吉津先生、牧先生をはじめとする諸先生からも多くのことをご教授いただきました。まだまだ未熟者でございますが本年を新たなスタートラインと考え、手の外科をはじめとした肩・肘関節を含めた上肢の外科を専門分野として、診療に研究にnext stepを踏み出していく所存でございます。今後とも本学会発展のため微力ではございますが精一杯努力して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

菊地 淑人 (きくち よしと)

きくち整形外科



この度、歴史と伝統のある日本手の外科学会の評議員に選出されたことを大変光栄に思います。私は平成2年に慶應義塾大学を卒業し、直ちに整形外科学教室に入室いたしました。学生時代より手の外科に興味を持ち、内西兼一郎先生に教を請い、入室してからも矢部 裕先生、高橋正憲先生、彦坂一雄先生、高山真一郎先生ら手の外科の諸先輩たちと仕事をさせて頂く機会に恵まれました。さらには川崎市立川崎病院在職中の4年半では堀内行雄先生の直接の指導を受けて参りました。研究は中村俊康先生の指導の元、MRIを用いた脱神経筋・再神経支配筋の研究を行って参りました。最近では、母指CM関節、遠位橈尺関節、肘関節疾患、関節リウマチに興味を持ち、積極的に治療を行っております。

平成18年10月よりは調布市にてきくち整形外科を開院し、今後地域医療の立場からも手の外科の啓蒙・普及に尽力する所存であります。微力ではありますが学会の発展に貢献できるよう努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

副島 修（そえじま おさむ）

福岡大学整形外科



昭和61年に福岡大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局しました。大学院終了後は主に膝関節に興味をもっておりましたが、故緒方公介教授のお誘いにより、平成5年から7年までカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）手の外科研究所へ留学しました。それが「手の外科」との最初の出会いとなり、帰国後は手の外科斑チーフとして診療に携わり、はや10年が経過しました。現在は舟状骨・キーンベック病・TFCCなど、主に手関節疾患に興味を持ちながら診療を行っております。

この度は伝統ある日本手の外科学会評議員に選出いただき、また初年度より広報委員会委員にもご指名いただき、誠に光栄に存じております。50周年の節目の年に、少しでも皆様のお役に立てればと思っております。何卒よろしくごお願い申し上げます。

高岸 憲二（たかぎし けんじ）

群馬大学医学部整形外科



私は昭和50年に九州大学整形外科に入局し、昭和54年ニューヨークにあるColumbia Presbyterian Medical Center（当時Neer教授がおり、今年ニューヨーク Yankees の松井選手が手術を受けた）でvisiting shoulder fellowを経験し、昭和57年九大整形外科助手、昭和61年北里大学整形外科助教授、平成7年同教授に昇格した後、平成9年群馬大学整形外科教授に転任しました。

このたび、理事長推薦で伝統ある日本手の外科学会の評議員に選出されましたこと、大変光栄に存じます。私の専門は肩関節とリウマチ外科をしておりますので肩関節から手までを一つのユニットとして研究していこうと思っております。教室の手の外科グループと一緒に日本手の外科学会への学問的・社会的発展に貢献できるよう尽力いたす所存ですので、何卒宜しくごお願い申し上げます

辻野 昭人（つじの あきひと）

慶友整形外科病院



20数年前、スーパーローテートレジデント制を取っていた筑波大学附属病院で、初期臨床研修を行いました。手の外科に巡り会ったのは、形成外科ローテート時です。つくば科学博の工事で、指の切断再接着が多い時期でした。マイクロの訓練に際して、末梢神経再生の実験を始めました。その後整形外科を専門に決め、上肢を中心に研究診療をしてきました。現在、整形外科専門病院で仕事をしておりますが、大学や総合病院をはじめ、中小病院やクリニックでの臨床経験があります。

現在、スーパーローテートが義務化されましたが、その後の研修に不安のあることだと思います。今までの経験から、専門医を志す方々の研修のお役に立ちたいと思います。

また、最近の臨床は、部位別に研究が進んでおりますが、手の病態を考えるとときに、上肢さらには身体全体からみなければならないことがあります。スポーツ障害や神経障害では特にそうです。肘やスポーツの学会にも参加しておりますので、この点から今後お役に立てれば幸いです。

中道 健一（なかみち けんいち） 虎の門病院整形外科



このたびは日本手の外科学会評議員に選任頂き、大変光栄に存じます。

私は昭和61年に島根医科大学を卒業後、虎の門病院の外科研修医に採用され、昭和63年から整形外科研修医となりました。研修期間中から立花新太郎現整形外科部長、南条文昭前形成外科部長の指導下に手の外科を学び、東京大学整形外科教室末梢神経診のカンファレンスに参加させていただいたこともあり、特に末梢神経疾患に興味をもつようになりました。手の外科医としてはまだまだ未熟で、治療に困った症例について諸先生方のご意見（時には厳しいご指導）をいただくこともしばしばです。今後もこのような経験をひとつひとつ大切に

しながら研鑽を続ける一方、少しでも新しい知見を発掘したいと考えております。日本手の外科学会の発展に貢献できるよう努力する所存ですので、何卒よろしくご厚意申し上げます。

服部 泰典（はっとり やすのり） 小郡第一総合病院整形外科



平成3年山口大学卒業後、同整形外科に入局、平成7年より小郡第一総合病院に勤務し、土井一輝先生のご指導のもとで研修をさせていただいております。平成10年10月から1年間、台湾のChang Gung Memorial Hospital形成外科に留学し、マイクロサージャリーの臨床の研鑽を行わせていただきました。帰国後も小郡第一総合病院に勤務し、現在に至っております。主な臨床研究のテーマは、腕神経叢損傷の機能再建と手の外傷を中心としたマイクロサージャリーです。今後も、患者様に最良の医療が提供できるように、また一般病院からでも世界に発信できる臨床研究が行えるように精進するつもりであります。

この度は、日本手の外科学会の評議員に選出いただき、身に余る光栄に思います。若輩者ではありますが、本学会の発展に少しでも寄与できればと考えています。今後とも一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくご厚意申し上げます。

藤岡 宏幸（ふじおか ひろゆき） 神戸大学大学院医学系研究科器官治療医学講座整形外科



私は、昭和63（1988）年に神戸大学医学部を卒業後、神戸大学整形外科に入局し整形外科研修を行いました。手の外科に関しては、広島手の外科講習会をはじめ多くの研修会で研修を受けさせていただきました。特に、兵庫医科大学整形外科教室におきましては、田中寿一教授より手の外科の診療の基本から手術手技までご指導をいただきました。

現在、神戸大学整形外科におきまして、基礎研究としては、骨軟骨移植術に関する基礎研究や生体吸収性高分子を用いた新しい軟骨修復材料の開発などを行っています。臨床では、切断指やスポーツ傷害などの外傷から関節リウマチなどの慢性疾患まで、手指から肩、腕神経叢まで上肢全体の機能再建の診療を担当させていただいております。

この度は、私のような若輩者を日本手の外科学会の評議員に選んでいただき、身に余る光栄と存じます。今後、諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りながら、日本手の外科学会の発展に少しでも貢献できるよう努力したいと思っておりますので、何卒よろしくご厚意申し上げます。

森友 寿夫（もりとも ひさお）

大阪大学整形外科



このたび歴史と伝統ある日本手の外科学会評議員に選出していただいたことを大変光栄に存じます。

私は平成2年日本医科大学卒業後、大阪大学整形外科に入局しました。研修終了後、多田浩一先生、吉田竹志先生のおられた関西労災病院で約3年間手の外科の臨床を指導していただき、手の外科の奥深さ、面白さに触れさせていただきました。手の外科を学びながら私が特に興味を持ったのは手関節のしくみで、平成10年より米国テキサス大学ガルベトン校に留学し手関節の解剖と新鮮屍体での3次元動態解析を行いました。平成12年に大阪大学に戻ってからは生体3次元動態解析システムを開発してまいりました。解剖、バイオメカニクスは臨床的に意見の分かれる点にもヒントを与えてくれることがあります。手の外科は患者の人間性、診察、手術、リハビリすべてをよく考慮し総合的に考える必要があると考えています。また、今後は人類学、系統発生学など外部の学問も学ぶことが手の外科の発展につながると考え努力していきたいと存じます。

山本 謙吾（やまもと けんご）

東京医科大学整形外科



このたび日本手の外科学会評議員にご推挙いただきましたこと大変光栄に存じます。

一昨年より東京医科大学整形外科学教室を担当させていただき暗中模索の状態でご教室運営をおこなっております。卒後臨床研修制度を初めとするさまざまな教育制度の改革が進む中で、本年より手の外科専門医制度も発足いたしました。医学教育における教育水準の標準化、系統だった教育システムの確立、教育の継続などが重要視される中で始まった今回の手の外科専門医制度も、時代の要求に応えるものになっていかなくてはならないと思います。

大学の使命は、1. 人間としての常識、教養を身につけた医師を育てるための系統的な学生教育、2. リサーチマインドを常に持ち続ける研究者の育成、3. 医学・医療全般に通じる広い見識と高い倫理観を持った良質な医師を養成すること、であると考えますが手の外科領域の教育におきましてもこのことを改めて肝に銘じまして教職員一丸となって活動を行い、本学会の発展に微力ながら全力で貢献していく所存です。浅学非才のため会員の諸先生方よりご指導ご鞭撻のほど何卒宜しく願い申し上げます。

ハンドギャラリー(児島コレクション)Ⅷ

埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所

児島忠雄

6. 手形

手形の歴史は古く、エル・カステイヨやアルタミラの洞穴絵画には手形が描かれていますが、多くは左手で、当時も右利きが多かったと推測されます。日本では、縄文中期の土器に三本指の手文が発見されました。しかし、縄文文化とともに消滅しました。三本指の人は普通の人とは違う能力を持っているとされ、「恐れ敬われた」とする説があります。1987年12月13日の朝日新聞は、その時代以来、手文は影をひそめ、江戸時代の戯作者・山東京伝の「この手重ね」のパロディ文様のほかは、力士の手形くらいしか見られなくなったと述べています。しかし、江戸時代には、後鳥羽天皇自らの両手の朱の手形を捺した遺言状(国立博物館蔵)が見られます。一方、半紙に捺した手形を門口や鴨居に貼って、手形の念力によって家を守るという民間信仰が日本の各地にあるようです。手形によって悪魔を退散させ、疫病神を追放して、家内の安全を守る手の呪性に対する信仰であり、チュニジアやイスラエルと相通するものがあることは興味深く思われます。また、日本では、民間信仰として、手の神様があり、手形を奉納する習慣がありました。私の勤務する病院の近くの武蔵嵐山には祭神を手白姫とする手白神社があり、木やブリキの手形が奉納されていますが、今は全くすたれてしまっています。

力士の手形としては、貴乃花・若乃花・曙・旭道山の四力士の手形があります。旭道山の身内の方から頂いたものです。きんさん・ぎんさんの手形があります。歩け歩け大会発祥の地である東松山のスリーデイマーチに参加された105歳のきんさん・ぎんさんから当時、社団法人歩け歩け協会副会長で東松山市在住の田口弘氏が頂き、当ギャラリーに寄贈されたものです。徳川家康の手形は日光の輪王寺にあり、奉納料をはずむと(?) いただくことができます。さる線が見られます。きんさん・ぎんさんの手と比較して、手の大きさは余り変わらないようで、歴史小説などで知られているように小柄な体格であったことが想像されます。(一番初めに述べました順序を変更していますことをご了承下さい。)





国際委員会担当理事
水 関 隆 也

早いもので1980年ロッテルダムで産声をあげた IFSSH も来年で第10回を数えることになりました。記念すべき10回総会は来年3月11日～15日にオーストラリア、シドニーで開催されます。我々の先達のご努力のおかげで日本手の外科学会は国際手の外科連合の中でも量、質ともに重要な位置を占めるに至り、日本抜きでの開催は考えられなくなりました。日手会として第10回総会の成功に協力したいと思います。一人でも多くの会員のご参加を期待いたします。以下にオーストラリア手の外科学会会長 Tonkin 先生から寄せられました歓迎文を掲載いたします。

Dear JSSH friends:

The increasing sophistication of hand surgery teaching and practice is reflected in the number of upcoming international meetings. In March 2007, the hand surgeons of Australia are pleased to be hosting three of these major meetings.

Sydney will host the International Federation meeting from March 11-15, 2007, in conjunction with the hand therapists. The organisation of this meeting has reached an advanced stage with the formation of a scientific programme designed to stimulate and challenge all delegates. Symposia and invited lectures will incorporate a balance of experienced, internationally-recognised speakers and the enthusiastic and youthful contributions of the hand surgeons of tomorrow. Professor Goran Lundborg from Sweden has been invited to deliver the inaugural IFSSH Swanson Lecture and is a most worthy recipient of this honour. The scientific programme will be complemented by an invited lecture from Dr Jeff Ayton, the Australian Hand Surgery Society Guest Lecturer, who will speak on his experiences with the Antarctic medical and scientific programme. Sydney, with its beautiful harbour, fine food and wine, opera and theatre awaits you, as do the Barrier Reef Islands, Australian outback centres and a warm-hearted population of all ethnic backgrounds. The congress website - www.hands2007.com - provides further information.

The IFSSH meeting will be preceded by the 7th World Congenital Symposium on Malformations of the Hand and Upper Limb, March 9-10. This meeting has been held on a triennial basis in Paris, Hawaii, Salt Lake City, Milan, Kyoto and Buenos Aires. The venue for this meeting is adjacent to the IFSSH convention centre and will provide a stimulating forum for not only those experts in the field of congenital hand surgery, but also those who wish to increase their knowledge in this fascinating field. More information can be obtained from the website: www.worldcongenital2007.com.

Finally, a post-congress wrist meeting will be held in Cairns, adjacent to the Barrier Reef, from 16-19 March, 2007. The website for further information is www.taylorimages.com.au.

The Australian Hand Surgery Society welcomes you to Sydney in 2007. We look forward to seeing old friends and making new friends.

Michael Tonkin
President
Australian Hand Surgery Society

第2回日伊手の外科合同会議 (Second Italian-Japanese Combined Meeting)

琉球大学整形外科 日手会国際委員会委員長
金谷文則

第2回日伊手の外科合同会議 2nd Meeting congiunto con la Società Giapponese di Chirurgia della Mano が2006年10月13日 Milano で開催されました。第1回は2004年11月12-15日に大阪で開催された第5回 APFSSH の14日午後1st Japanese-Italian Hand Club として開催されております。今回は2009年10月11-14日に開催された第44回イタリア手の外科学会 44th Congresso Nazionale della Società Italiana di Chirurgia della Mano (President Dr. Ezio Morelli) の3日目の第一会場で開催されました。会場は Borsa (証券取引所) の ground floor と地下1階で地下には建設時に発見された遺跡を透明な床から見る事ができました。合同会議は日手会理事長中村先生の挨拶にはじまり、昼には Lettura magistrale として奈良県立医大玉井名誉教授の “How replantation and microsurgery developed in Nara” が企画され、満員の盛況でした。今回の日本側参加者が52名と予想を大幅に超えたため、一般演題の発表時間は4分・討論2分と短くなり、それでも13日だけでは演題が収まらず、一部の演題は12日と14日に移動されていました。Round table は学会のテーマでもある “Congenital malformations” と “Technologies” が企画されていました。イタリア手の外科学会は日手会の約半分の規模であるにもかかわらず、レベルが高い印象を受けました。基礎研究は日本ほどの広がりはありませんが、いくつかの面ではかなり深く研究されている印象を受けました。また、実験的と思われるものでも臨床応用されている印象を受けました。第1会場は終日同時通訳 (伊↔英) がついており、コンピューターテクニシャンも慣れていたことから発表に遅滞は見られず、当日の学会運営には大きな問題はなかったようです。一方、学会前の連絡は一部演者に伝わっておらず、今後、この会を続けるのであれば、日米手の外科合同会議のように日本側からも委員を出した方が良い印象を受けました。

Milano の人口は140万人、ファッションの町として有名ですが、服やコートなどは1 Euro が153円と高かったためか日本と比べて安いと言った印象はありませんでした。市の中心部の大聖堂 Duomo や Sforzesco 城、最後の晩餐 (レオナルド・ダ・ヴィンチ) などはずべて石畳の道を歩いて行ける距離にあり、とても見応えがありました。今回は弘前大学の藤教授 (第1回会長)・奥様に大変お世話になりました。有意義な情報が得られ、また米国の学会に出るのとは違った刺激も受けましたので、今後2-3年に一度日伊合同会議を開く価値はあるとの印象を受けました。



学会場(Borsa)前：藤夫妻、
稲田先生、金谷



Dr. Lanzetta の office (Monza) で：世界で始めて切断指再接着に成功した玉井先生、世界初の Hand transplantation チームの一員である Dr. Marco Lanzetta、藤先生、金谷



会場近くの Duomo (改修中)

会員特別頒布のご案内

日本手の外科学会では、各委員会にお願いし、会員の活動に役立つ種々の事業を進めております。ご希望の会員には、実費で頒布いたしますので事務局宛お申込ください。

在庫に限りのあるものもございますので、ご希望の方はお早めにお申込ください。

教育研修ビデオライブラリー 全25巻（各3,000円（税込）：送料込）

※巻により在庫の有無がございます。事務局にお問合せください。

（教育研修委員会）

手の外科学用語集 改訂版第2版（南江堂）（1冊3,675円（税込）：送料込）

※日手会誌への投稿の際などにお役立てください。

（用語委員会）

手の機能評価表 第4版（1冊2,000円（税込）：送料350円）

※平成18年4月に改訂版として第4版が発刊されました。

（機能評価委員会）

ネクタイ（1本 3,000円；送料200円）数量限定

※スーツとも相性が良く、大変好評です。デザインは日手会ホームページ上でご覧いただけます。数には限りがございますので、お早めにお申込ください。

（広報委員会）

タイタック、ネクタイピン、ハットピン（1個800円；送料200円）数量限定

※故藤巻悦夫先生が第42回日手会の際、記念品として作成されたものをメモリアルとして復刻させました。是非とも学会にお出かけの際などにお付けください。

（広報委員会）

携帯ストラップ 3種（1個600円；送料200円）数量限定

※携帯電話の画面を拭く便利なストラップです。お手頃価格となっておりますので、お土産などにも是非どうぞ。

（広報委員会）

関連学会・研究会のお知らせ

第21回東日本手の外科研究会

会 期：平成19年 1月26日(金)
 会 場：東京都／高輪プリンスホテル
 会 長：水谷 一裕（東邦大学第二整形外科）
 問合せ先：〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 日本コンベンションサービス株式会社内
 第21回東日本手の外科研究会事務局
 TEL 03-3508-1214 FAX 03-3508-1302
 E-mail：ejhand21@convention.co.jp
 詳細は <http://www2.convention.co.jp/ejhand21/>

第28回九州手の外科研究会

会 期：平成19年 2月3日(土)
 会 場：福岡市／九州大学医学部百年講堂
 会 長：岩本 幸英（九州大学整形外科）
 問合せ先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院医学研究院整形外科内
 第28回九州手の外科研究会事務局
 TEL 092-642-5487 FAX 092-642-5507
 E-mail：28k-hand@ortho.med.kyushu-u.ac.jp
 詳細は <http://www.jssh.gr.jp/khand/index28.html>

第24回中部日本手の外科研究会

会 期：平成19年 2月9日(金)
 会 場：神戸市／神戸国際会議場
 会 長：田中 寿一（兵庫医科大学整形外科）
 問合せ先：〒663-8501 西宮市武庫川町1-1 兵庫医科大学整形外科科学教室内
 第24回中部日本手の外科研究会事務局
 TEL 0798-45-6452 FAX 0798-45-6453
 E-mail：orth@hyo-med.ac.jp
 詳細は <http://www.jssh.gr.jp/cjhand/>

第19回日本肘関節学会

会 期：平成19年 2月10日(土)
 会 場：神戸市／神戸国際会議場
 会 長：田中 寿一（兵庫医科大学整形外科）
 問合せ先：〒663-8501 西宮市武庫川町1-1 兵庫医科大学整形外科科学教室内
 第19回日本肘関節学会事務局
 TEL 0798-45-6452 FAX 0798-45-6453
 E-mail：orth@hyo-med.ac.jp
 詳細は <http://elbow-jp.org/shukai/index19.html>

10th Congress of IFSSH and 7th Congress of IFSHT

会 期：平成19年 3月11日(日)～15日(木)

会 場：Sydney Convention and Exhibition Centre, Sydney, Australia

詳細は <http://www.hands2007.com/>

第50回日本形成外科学会総会・学術集会

会 期：平成19年 4月11日(水)～13日(金)

会 場：東京都／ホテル日航東京

会 長：栗原 邦弘（東京慈恵会医科大学形成外科）

問合せ先：〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 東京慈恵会医科大学形成外科学講座内

第50回日本形成外科学会総会・学術集会事務局

TEL 03-3433-1111(代) 内線3481 FAX 03-3433-1092

E-mail：keiseigeka2007@jikei.ac.jp

詳細は <http://square.umin.ac.jp/jsprs50/>

第80回日本整形外科学会学術集会

会 期：平成19年 5月24日(木)～27日(日)

会 場：神戸市／ポートピアホテルほか

会 長：中村 孝志（京都大学整形外科）

問合せ先：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座整形外科学

第80回日本整形外科学会学術集会

TEL 075-752-1722 FAX 075-751-8409

E-mail：joa2007@congre.co.jp

詳細は <http://www.joa2007.jp/>

6th Triennial International Hand & Wrist Biomechanics Symposium

会 期：平成19年 6月29日(金)～30日(土)

会 場：National Cheng Kung University, Tainan, TAIWAN

会 長：Fong-Chin Su, PhD & Haw-Yen Chiu, MD

問合せ先：TIHWBS-6 Secretariat Institute of Biomedical Engineering National Cheng Kung University

1 Unirersity Road, Tainan 701, TAIWAN

Tel: +886-6-2760665

Fax: +886-6-2343270

E-mail：tihwbs6@conf.ncku.edu.tw

詳細は <http://conf.ncku.edu.tw/tihwbs6/>

第50回日本手の外科学会学術集会

会 期：平成19年（2007年）4月19日(木)・20日(金)

会 場：山形／山形国際ホテル

会 長：荻野 利彦（山形大学整形外科）

テ ー マ：日手会50周年記念・新たな飛躍

特別講演 ・石井 清一（札幌医科大学名誉教授）

招待講演 ・Beat Simmen（Zurich Schulthess Klinik, Switzerland）

- Terry Light (Loyola University, USA)
- Amy L. Ladd (Stanford University, USA)
- Jin Bo Tang (Nangtong University, China)
- Michael A. Tonkin (Royal North Shore Hospital, Australia)
- Simo Vilkki (Tampere University, Finland)
- William H. Seitz (Cleveland Orthopaedic and Spine Hospital, USA)
- Vincent R. Hentz (Stanford University, USA)
- Kwan-Chul Tark (Yonsei University, Korea)
- Marybeth Ezaki (Texas Scottish Rite Hospital for Children, USA)
- Robert M. Szabo (University of California, USA)
- Jaiyoung Ryu (West Virginia University, USA)
- David Chuang (Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan)
- Panupan Songcharoen (Mahidol University, Thailand)
- Kevin C. Chung (University of Michigan, USA)
- Robert W. Bucholz (University of Texas Southwestern Medical School, USA)

招待発表

- Robert Adani (University of Modena, Italy)
- YC Chiang (Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan)
- YY Chow (Hong Kong Tuen Mun Hospital, China)
- LK Hung (Chinese University of Hong Kong, China)
- PC Ho (Chinese University of Hong Kong, China)
- Poong Taek Kim (Kyungpook National University, Korea)
- Scott N. Oishi (Texas Scottish Rite Hospital for Children, USA)

シンポジウム

- 1) 日手会50周年記念：次世代へのメッセージ
- 2) 手の成長障害の診断と治療
- 3) 変形性手関節症の治療
- 4) リウマチ上肢の手術治療
- 5) 手の先天異常の治療
- 6) 手・肘関節鏡手術の現況と展望
- 7) 手の外科の新しい工夫

問合せ先：〒990-9585 山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部整形外科内

第50回日本手の外科学会学術集会事務局

TEL 023-628-5355 FAX 023-628-5357

E-mail : seikei@med.id.yamagata-u.ac.jp

詳細は <http://www.jssh.gr.jp/50yamagata2007/>

国際手の外科シンポジウム・山形

International Symposium on Surgery of the Hand in Yamagata

- 会 期：平成19年4月21日(土)
 会 場：山形／山形国際ホテル
 会 長：荻野 利彦 (山形大学整形外科)
 言 語：英語

シンポジウム・パネルディスカッション (一部演者指定)：

手の骨折，屈筋腱損傷，神経損傷，マイクロサージャリー，手の再建，小児の手，その他

問合せ先：〒990-9585 山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部整形外科内
 TEL 023-628-5355 FAX 023-628-5357
 E-mail : seikei@med.id.yamagata-u.ac.jp
 詳細は <http://www.jssh.gr.jp/50yamagata2007/>

第46回手の先天異常懇話会

問題症例などを持ち寄っていただき自由に討論する会ですので、多くの方々の参加をお待ちしております。本年度は外国人招待者にも多数参加していただく予定です。

会の進行を円滑に行うため呈示していただく症例の数と概要をあらかじめ把握しておく必要がありますので、前もって応募していただくようお願いいたします。発表された症例につきましては懇話会での症例検討の内容を含めた簡単なまとめ（原稿用紙2枚，図2～3枚）を後日提出していただき、日手会誌に掲載いたします。

日 時：平成19年4月20日(金) ランチョン(予定)

会 場：山形／山形国際ホテル（第50回日本手の外科学会学術集会会場）

会 費：1,000円 ※昼食を用意いたします

応募方法：平成19年3月末日までに郵送またはE-mailで症例の概要を写真とともにお送りください。なお、症例数の関係で当日に検討できなかった症例につきましては、先天異常委員会で検討のうえ、後日報告させていただきます。

郵 送 先：〒355-0072 埼玉県東松山市石橋1721
 埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所
 担当：福本 恵三

E-mail : handsurg@seikei.or.jp

世 話 人：日本手の外科学会先天異常委員会 委員長 福本恵三

※当日はPCによるプレゼンテーションになります。各自PCを持参してください。プロジェクターとの接続には、一般的な15ピンのコネクター以外は対応不能ですので、必要に応じて変換ケーブルも持参してください。また、PCのトラブルに備えてプレゼンテーションをCD-ROMまたはUSBメモリーで持参してください。スライドによる発表は受付ません。発表時間は5分です。発表者の方は必ず時間までに会場受付にお越しください。

第30回末梢神経を語る会（第50回日本手の外科学会学術集会ランチョンセミナー）

会 期：平成19年4月19日(木) ランチョン(予定)

会 場：山形／山形国際ホテル（第50回日本手の外科学会学術集会会場）

講 師：慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター所長
 慶應義塾大学教授 木村 彰男

「筋電図，神経伝導検査の基礎と臨床—データの見方と陥りやすいピットホール—」

日本手の外科学会第13回春期教育研修会

会 期：平成19年4月21日(土)

会 場：山形／山形国際ホテル

問合せ先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内
 日本手の外科学会事務局
 TEL 052-836-3511 FAX: 052-836-3510
 E-mail : info@jssh.gr.jp

手の外科専門医制度

去る、11月20日に、第1回の特例措置による申請を〆切りましたところ、多数の会員からの申請がございました。

資格認定委員会において申請書類の審査を行ったうえで理事会での審議承任を受けることとなります。審査結果は、1月中旬にご通知申し上げます。なお、その際に、専門医としての承認を受けられた方には、認定研修施設の申請に関する書類をお送りする予定です。初回に認定されるためには、2月中旬までに申請していただく必要がありますので、お急ぎ申請してください。

※ 専門医に関する情報はホームページ上でご案内いたしますので、適宜ご確認ください。

日本手の外科学会50周年記念式典・祝賀会について

第50回学術集会の開催に合わせて、日本手の外科学会記念式典ならびに祝賀会を開催することとなりました。日本手の外科学会の50年の歴史を振り返り、ともに祝い、そして次の50年、100年への新たな出発といたしたいと存じます。どうか会員の皆様には多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本手の外科学会50周年記念式典ならびに祝賀会

日時および会場

式典：平成19年4月19日(木) 午後6時～7時
山形国際ホテル(第50回学術集会会場)／山形市香澄町1-4-5 TEL 023-633-1313
祝賀会：平成19年4月19日(木) 午後7時30分～
ホテルメトロポリタン山形／山形市香澄町1-1-1 TEL 023-628-1111

参加費 式典：無料 祝賀会：10,000円

参加登録：祝賀会の参加は、全て事前登録となります。

学術集会ホームページ <http://www.jssh.gr.jp/50yamagata2007/index.html> の【事前登録】ボタンをクリックして、登録画面にお進みください。

記念ネクタイ：50周年記念バージョンを作成しております。上記ホームページからお申込みください(1本3,000円)。

日本手の外科学会広報委員会
担当理事：田中寿一
委員長：青木光広

編集後記

本年度より評議員・広報委員会委員を拝命し、先ず日手会ニュースを担当させていただきました。50周年の節目の時に、少しでもお役に立てれば幸いです。さて、現在広報委員会では、手の外科パンフレットの改訂・DVD作成ならびに来年の日手会50周年記念式典・祝賀会の準備を鋭意進めております。厳粛でかつ有意義な記念式典・祝賀会となるよう委員一同連日奮闘しておりますので、一人でも多くの会員諸兄弟のご参加をお願いいたします。(文責：副島 修)

広報委員会

(担当理事：田中寿一 アドバイザー：藤澤幸三、堀内行雄、柳原 泰 委員長：青木光広 委員：池上博泰、香月憲一、砂川 融、副島 修、高原政利、戸部正博)